

2014年8月3日

ブライアン・ブルエット牧師

ピリピ人への手紙：喜びの青写真 #7

OICへようこそ。今日も引き続き、使徒パウロがピリピの教会に宛てて書いた手紙を学んでいきます。パウロは、自分の喜びはイエスとのつながりに根差しており、外的環境がその喜びを取り去ることはできないと語りました。そして、生きようが死のうがどちらでもよいとまで言いました。どちらにも喜びを見出せるからです。ピリピの教会に誤った信仰や教えがあったことを示す内容は、この手紙にはありません。しかし、教会内にある問題についておそらくパウロはエパフロデトから報告を受けていたのでしょう。パウロは1章27節あたりから、それらの問題について指摘しはじめます。パウロは、水面下に潜む問題を取り上げます。それは、教会内の不一致です。パウロは、この部分からクリスチャンの生き方について綴ります。今日の聖書箇所はピリピ 2:1-4 です。

ピリピ 2:1-4

2:1 こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあ、愛の慰めがあ、御霊の交わりがあ、愛情とあわれみがあるなら、 2:2 私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。 2:3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。 2:4 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

パウロは、喜びを生みだす一致を教会に勧めます。その勧めは、私たちにも向けられています。パウロは、そのような一致を生む3つの要素について語ります。

#1 一致に対するモチベーション

ピリピ 2:1

2:1 こういうわけですから、もしキリストにあって励ましがあ、愛の慰めがあ、御霊の交わりがあ、愛情とあわれみがあるなら、

ピリピの教会は総じて良い信徒たちの集まりだと言えるでしょう。しかし、毒に満ちたへびはそのようなところにもいます。そのへびとは不一致です。こういうわけで、パウロは教会に、そしてここ OIC にいる私たち、一致を持ちたいというモチベーションを与えてくれるものは何かを改めて教えてください。この箇所を見ると、「もし～あるなら」と書かれています。これは、あるかないかを疑う表現ではなく、むしろここでは、あることを確認する表現です。「もし～あるなら」の部分、～あるので」と言い換えることができます。では、もう一度読んでみましょう。

キリストにある愛と慰め、そしてクリスチャン同士のつながりにある愛と慰めがあるので、私たちはイエスの教えに従おうという気になるはず。この真理をパウロは別の箇所でも強調します。コリントの教会に宛てた手紙の中にあります。

コリント第二 1:3-5

1:3 私たちの主イエス・キリストの父なる神、慈愛の父、すべての慰めの神がほめたたえられますように。 1:4 神は、どのような苦しみのときにも、私たちを慰めてくださいます。こうして、私たちも、自分自身が神から受ける慰めによって、どのような苦しみの中にいる人

をも慰めることができるのです。1:5 それは、私たちにキリストの苦難があふれているように、慰めもまたキリストによってあふれているからです。

また、御霊つまり聖霊との交わりがあるので、と別の個所で語ります。これは、コリントの教会に宛てたもうひとつの手紙に出てきます。

コリント第一 12:13

12:13 なぜなら、私たちはみな、ユダヤ人もギリシヤ人も、奴隷も自由人も、一つのからだとなるように、一つの御霊によってバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたからです。

同じ聖霊があなたのうちにも私のうちにも宿っておられるなら、そこに一致を求められるでしょう。そうでなければ、聖霊が自分自身と戦うことになるからです。教会の一致とは、御霊の一致です。それを私たちはコイノニアと呼びます。パウロはまた、互いに対する愛とあわれみがあれば、一致もあるはずだと語ります。神は私たちにあわれみを注いでくださいます。そのあわれみを独り占めするのは正しいことでしょうか。励まし、愛、あわれみ、交わり、私たちは、このようなものを受けています。その結果として、私たちのうちにもたらされるべきものは何でしょうか。喜びを生み出す一致です。

#2 喜びを生み出す一致の性質

ピリピ 2:2

2:2 私の喜びが満たされるように、あなたがたは一致を保ち、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、志を一つにしてください。

喜びを生み出す一致が教会にあれば、どのような姿になるでしょう。まず、そこには同じ心があるはずですが。

コリント第一 1:10

1:10 さて、兄弟たち。私は、私たちの主イエス・キリストの御名によって、あなたがたにお願いします。どうか、みな一致して、仲間割れすることなく、同じ心、同じ判断を完全に保ってください。

さらに、同じ心は信徒たちの間でどのように現れるでしょう。具体的に言うと、同じものを同じように愛します。教会や神のみことばを、純粋かつ熱心に愛します。

ペテロ第一 1:23

1:23 あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わることはない、神のことばによるのです。

手に負えない務めのように感じますが、すでにいただいたあらゆる恵みがモチベーションであることと、聖霊の力によってその務めを果たすということを忘れないようにしましょう。たったひとつの目標で満足するとは、何をするにも神に栄光を帰すことを目指すという意味です。この場所においても、さまよう世の中においても、世の光となることです。つまり、たまに教会に来るのではなく、週7日間、いつも教会として生きることです。

#3 喜びを生み出す一致に必要なとされる姿勢

ピリピ 2:3,4

2:3 何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。 2:4 自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。

ここの個所は、自分中心ではなくキリストを中心としなさいと語っているようです。だから、自己中心や虚栄心を捨てなければならないのです。神は、自分より人のことを優先する敬意や謙虚さを示すことを私たちに望まれます。自分の短所や欠点を忘れずに覚えていれば、謙虚でいるのはそれほど難しいことではないはずで、パウロは、ローマ 12:10b でも、他の人のことを優先させることについて語りました。

ローマ 12:10b

互いに人を自分よりまさっていると思いなさい。

パウロは 4 節で、自分のことだけではなく人のことも顧みなさいと語りました。皆さんはスーパーコノミヤでお買い物をしたことがあるでしょうか。とくに全品 2 割引の日は、誰も人を優先させたりしません。みんな我先にと商品を手に入れます。

結び

今日の個所はすばらしい神のみことばです。私たち一人一人がこの世をよりよい場所にすることが出来ます。そのために、パウロがここで提案する 3 つのことを実践しましょう。私たちのモチベーションは、すでに私たちがいただいた恵みの数々です。同じ霊によってひとつにされ、神に栄光を帰すという共通の目標を掲げる教会の姿は美しいものです。人を自分よりも尊重することが正しい姿勢です。これらは神のみことばの真理です。私の喜びが満たされるように、と使徒パウロは言いました。そうするなら、私たちは神をたたえる教会になれるでしょう。祈りましょう。